

さわがせ

号数 第 3 3 1 号
発行日 令和 4 年 10 月 23 日
発行所 金光教 韮 教会
〒 550-0011
大阪市西区阿波座 2-2-10
TEL&FAX 06(6541) 6313
mail : kagiyama2001@ybb.ne.jp



秋季霊祭が仕えられ、参拝者全員が玉串を奉奠いたしました(9 月 23 日)

人を助けて徳積みめば

教会長 鍵山 公 生

皆様とともに生神金光大神大祭をお迎えさせていただき、真にありがたいことでございます。このお祭りは教祖金光大神様が「神と人とあいよかけよで立ち行く」助かりの世界を、御身をもって現されたお働きに御礼を申し上げ、更に姿なきままに御取次ぎください、私たちが教祖様のお示しくださった「神人の道」が現れてくる生き方をお手本に、そのご信心を生活に現していくことを祈願するお祭りでございます。



世の中の怖いもの

世の中に地震、雷、火事、親父は怖いものの代表とされてきましたが、もっと怖いものは「徳切れ」と仰せられています。私たちは自分のことばかりに捕らわれて、周りの人の助かることを疎かにしています。自分一人で生きていくことができないこの世です。周りの人とともに助かることを考えなければなりません。

神様からのお頼み

教祖様は天地金乃神様より「欲を離して、農業を止めて神を助けてくれぬか」とお頼みを受けられました。それは、「教祖様のように実意丁寧な信心をしている者であっても、種々難儀に出会っている人が世の中に多くあり、その人たちに神と人との間を取り次いで、助けてやってほしい。そうすれば神も助かり、人間も立ちゆき、神、人ともに末々まで繁盛する、あいよかけよの生活ができる」と仰せられました。

神様から頼まれた大切なこと

世間に多くの人が、方角、日柄、吉凶、占いなどで惑わされ、人間が苦しんできたが、そのような規則は人間が勝手に創ったものであって、守らなくてもよいと。

実は教祖様も世間の人以上にそれらのことを実直に守られましたが、結局神様を悪者にし、^{たばか}謀る（ごまかす）ことになっていたのです。これからは何事をするにも天地金乃神様をお願いしてさせていただけば心配がないとお教えくださいました。

欲を離して、家業を止めて

神様が「欲を離して」と仰せられても、教祖様はまだ45才という年齢で、家族もたくさん居られ、家業を止めればこれから食べていけないという不安な問題が起ってきます。そこでご子息や奥様にはぼちぼち農業をしてほしいと頼まれたのでした。

人間には多くの欲があります。食欲。生き欲。地位・名誉欲。財産欲。性欲。等々。それを神様は全て離せと仰っているのではありません。

教祖様は「食べぬ修行は嫌い」と仰せで、食欲がなければ生きていくことができません。また「この道は子孫繁盛、家繁盛の道を教える」と仰せられ、生きる欲や性欲がなければ子孫が絶えてしまいます。そのように生きていくためになくしてはならない欲まで離せと言っておられるのではありません。「我情我欲を離れて、真の道を知れよ」と仰せのように、我さえ助かれば良いといった思いを離せということです。



教祖様は12歳で養子に入れ、^{かんなんしんく}艱難辛苦をしながら財を蓄え、田畑を広げましたが、お取次ぎをされるようになってから、その田畑も順次、人に譲るなどして少なくなっていくのでした。

人を助ける心

金光様の道では、「人を助けて己が助かる道」と教えられています。その助け方として、話を聞いてあげる。優しい言葉をかけてあげる。お金を与えて助ける。体を使って手伝いをしてあげるなどなど、その困っている内容によって助け方が

いろいろあります。そこで言われる「己が助かる」というのは、自分の損得感情から離れて、神様からいただく徳を受けるという助かり方です。

ある方が参拝の道中、気の毒な人を見て、自分の着物を脱いであげたと話され、そのことについて金光様は、「人が困っているのを見て、何とかしてあげたいという心は神心であり、それはそのまま神である」と仰せになられ、そのように「何とかさせてあげたい」と思うその心を育てよと仰せになっておられるのです。

神を助けてくれ

我が子が水に落ちたのを我が身を忘れて、即飛び込んで助けたいと思うのは親心です。また自分は泳げないのに飛び込もうとするのは無謀です。それでもほっておけないのが親心です。誰かに助けを求めたり、ロープや板切れを探してそれに対応することになるでしょう。そしてそこに祈りを込めることが大切なことです。

以前金光新聞に、読者の作文が募集され、最優秀賞を得た話を思い出しました。

母と娘が列車の隅で話をしており、何か問題が起こった様子でした。どうやら娘は気分が優れず吐き気を催したようで、娘さんの顔はだんだん青ざめていき、お母さんはその姿を見て、他の人には迷惑をかけられないし、列車にはトイレもなく、どうしたものかと考えたのでしょう。いよいよ切羽詰まり自分の胸元を開け、「ここに吐き！、ここに吐きなさい！」と言ったのです。娘さんは普通では考えられない行動をしなければならずもじもじしていましたが、吐き出さずにはおれなかったのです。



身内の者に対する処し方と、他人に施す態度は自ずと変わってくるでしょうが、金光様は「人の身が大事か、我が身が大事か、人も我が身も皆人」と仰せになられ、神様の目から見られれば、「世の人々はすべて神様の可愛いうちの子」なのです。

教祖様に神様から助けてくれと仰せになっておられるご内容は、世間に難儀している人がたくさんおるから、神に取り次いで助けてやってほしいと願っておられるのです。

自分が難儀してお道の信心によっておかげを受けたら、そのありがたいことを忘れず、人が困っていることを聞けば、誰に頼まれずとも、その人が助かるようにと神様に願わせていただくことです。

消防車のサイレンの音が聞こえたら、「どうぞ火事が早く消え、怪我、過ちのなきように」などと願わせていただくのです。そのことにより神様の徳を積み重ねていただきます。その徳が積み重なり、自分の災難を免れるおかげとなるのです。

何事も自分が正しいと思ってしても失敗することが多く、お結界にてお届けをして、神様の御心に沿わせていただく生き方をすれば、何事も都合よくおかげにさせていただくのです。

「お神酒をつける心になれば」

在籍教師 鍵山 有久子

今年の3月より、私は金光教放送センターで御用にお使
いいただいています。

毎週日曜日の朝5時40分からABC放送で「金光教の時間」
というラジオ放送をしております。金光教放送センター
では、その放送する中身を制作しています。放送時間は約7分です。この時間内
に内容を収めるのが結構大変だなあと感じます。

放送されたものは金光教のラジオ放送のホームページやpodcastというアプリ
で聴くことができます。しかし、金光教のラジオ放送をインターネットで検索し
ても、なかなかホームページが出てこないこともあります。そういう時に、専用
のQRコードをスマホのカメラで読み込むと簡単にホームページに飛ばしてくれ
て便利です。そこで、このQRコードのついたポスターをこのたび急ぎ作り、今
度の秋の御大祭の時に配布するということになりました。



ポスターの構図案ができてモデルが必要となり、
どなたか職員の知り合いに引き受けてほしいと言
話になりました。そこで、韃教会でお琴のご用もし
てくれている金谷佳音さんにモデルをお願いいたし
ました。どのようなポスターになったかは、今度の
御大祭の時には掲示板にも張り出していると思いま
すのでお楽しみにして頂きたいと思います。で、ポ
スターを見たら、「あ、ホントだ！佳音ちゃんだ！」で、
終わりではなく、ぜひポスターの下の方に控えめに
載っているQRコードから放送センターのホームペ
ージをご覧くださいと思います。若先生のお話
も今年の5月に放送され、ホームページでお聞きい
ただけますので、ぜひよろしくお願ひします。

さて、金光教のラジオ放送の宣伝はこれくらいに致しまして。話が変わります。
先月、8月31日に放送センターで会議がありました。会議に遅れるわけにはい
かないと、慌ただしく用意をして家を出ようとした矢先に、左足の指を棚の角に
ぶつけました。よく小指をぶつけて痛いという事はあるんですが、その時はそれ
以上にもものすごく痛くて、5分ほど動けずにいました。恐る恐る足の指を見まし
たら、少し中指がくの字に薬指によりかかるように曲がっていました。ひょっと
して折れたんじゃないかと思ひました。しかし、さらに5分ほどしたら、立つこ
とができました。でも指先に力が入ると大変痛いので、ソロリソロリとしか歩け
ません。歩けるだけよかったです。

とりあえず、湿布薬を貼りまして、靴下を履いて荷物を持ち、自転車に乗りま
した。放送センターは肥後橋の玉水記念館の中にあるので、自転車で通えます。



そして、ありがたいことに、自転車に乗る分には、足は痛まなかったんです。おかげで会議には何とか間に合いました。

その足ですが、とりあえず病院に行かず、様子を見ることにしました。夜眠れないほど痛んだら行こうと思ったんですが、夜はよく休ませていただけました。でも二日目の夜に湿布薬がなくなり、どうしようかと思いました。ご神米のお剣先の紙にお神酒をつけて、それを湿布薬のかわりに足に貼って靴下を履いて休みました。翌日の朝、足を見ると靴下は脱げて、ご神米の紙もどこかに行っちゃってしまいました。これちょっとは難しいなと思いました。

その日の夕方、若先生が湿布薬を買ってきてくれたので「良かった」と思い湿布薬を貼りました。湿布を貼りかえながら数日が経ちましたが、なかなか完全には痛みが無くならない。それどころか湿布薬で皮膚がヒリヒリするようになってきました。

夕飯どきにその事を家族に話しますと、若先生が「お神酒さんを頂きなさいよ」と言うんです。私は「それはもうやってみました。ご神米の紙にお神酒をつけて貼ってもすぐに外れるんです」と言いました。すると次男が「それはお母さんの信心が足りないからだよ」と言ったんです。ビックリしました。「あんたがそれを言うか!？」と。でも、反論できませんでした。言われてみれば、自分でもその通りだなと思いました。その日の夜はよくお願いして、お神酒さんを足にペタペタとつけて、休む事にしました。

その翌日、放送センターに出務して、予定を確認する為に手帳を見ました。私は手帳の最初のページに、その年の元旦祭で頂いた御教えくじの御教えを忘れないように書いているんです。その最初のページがたまたま開いたのでふと見た。そこには「痛いところがあったら、お神酒をつける心になればおかげがある。」と書いてありました。「そう来たか」と思いました。忘れないように書いてあったんだけど、すっかり忘れてた。ここに繋がるのかと。神様は全部お見通しですね。

「お神酒をつけたらおかげがある」ではない。「お神酒をつける心になればおかげはある」と教祖がおっしゃってある。湿布薬を貼ってもいい。でも神様に頼む気持ちがないといけない。でも、つい湿布を貼っとけば治るかなとだけ思ってしまふ。薬を飲む際にも、湿布薬を貼る際にも、神様にお願いしてからという気持ちあるつもりなんです。頭では分かっているんですが。実際、じゃあ、痛いところにお神酒を頂く気持ちにどれくらいなるでしょうか？効能がハッキリしている薬があれば薬を使います。すると、いつしか薬を頼む気持ちのほうが強くなる。

教祖様の御教えに、「天地の神様がお造りくださる人間であるから、病気にかかった時に、天地の親神を頼んで、まめにしてもらうように心願するのは、道理にかのうた信心ではないか。たとえば言えば、家は大工が作ったものであるから、修繕するにも大工に頼んで作業をする。着物は女の手でこしらえたものであるから、着物が古びた時に、夫人の手で洗濯、仕立てかえすることは、誰でも知っておる。人間は万物の霊長であるから、万物を見て道理に合う信心をせねばならぬ。」とあります。

薬は菌を退治することを助けたり炎症を鎮めて体が回復するのを助けてくれた

りしますが、でも菌やウイルスから体を守るのは免疫細胞の役目で、体の細胞を修復し正常な働きを司っているはやはり体本体ですね。それを造られた神様に体の力を命をひき出していただかないといけない。ということなのかなと思います。

お神酒を痛いところにつけている時は、心が自然と神様に向かうと思います。そのことが大切だったなと思います。これでお話を終わらせていただきます。ありがとうございました。
(令和4年9月23日秋季霊祭時、体験発表)

左記のQRコードをスマホで読み取ると、ラジオ放送を聞くことができます。



ホームページ



Podcast



YouTube

新役員紹介

韃教会の役員をしておられた松居邦昌氏が昨年9月に、清水光雄氏が今年7月に亡くなられました。役員が欠員となっておりましたので、10月23日付にて、次の方々が新役員に任命されました。



責任役員 渡辺秀孝氏



信徒総代 栗山教雄氏



信徒総代 松居真幸氏

月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出ししてご慰霊させていただきます。

（11月24日、午後2時より）



福岡県にお住いの 古河美子さんからの郵便

鍵山先生

少年少女会 50 年、おめでとうございます。全国大会行進の、とりどりの蝶やひまわり、くいだおれ太郎やカニ、竜宮城の御一行様、柔軟な発想と作り物の見事さ、さすが！

「継続は力なり」というけれど、継続するためのエネルギーは大変なものだと思います。先生の粘り強い意志と行動力のおかげだと、深く感動しています。

私が大学に入学した年、新婚の先生ご夫妻（いや当時はまだ恋人同士であられたっけ？）が結成してくださった少年少女会に、弟たちと参加させていただきました。月1回の会合では、ご祈念や先生のお話もあったに違いないけれど覚えはなく（すみません）、先生がボーイスカウトの経験を活かして教えてくださるゲームや歌、工作やちょっとした知恵に、小さい子たちと一緒に夢中になりました。

輪の真ん中に立つオニが、輪のみんなが手をたたきながら少しずつ動作を変える司令塔が誰かをみつけるゲーム、同じ種類の果物役同士が位置を変える際にその位置に入り込む椅子取りゲーム、相手の手のひらのハンカチを素早く奪いとる側と、握りこんで防ぐ側の攻防戦、年齢差のある子どもたちが一気に惹きつけられ巻き込まれて楽しい時間を過ごさせていただきました。私が大黒様の格好をしたのはクリスマスだったのでしょうか？

お世話役をさせていただいた慰労で奥様に手料理をふるまっていたとき



昭和 47 年 12 月少年少女集会
さよならパーティー時に、
大国主に扮装した古河美子さん

に、人生で初めてサラミを口にしました。私にとってチーズやサラミはあこがれの外国の物。奥様はハイカラさんだと思ったっけ。

これまでの「さわかせ」で、当時小学生会員だった方が、結婚して新しい家族とともに参拝しておられることを知りました。少年少女会は、ゲーム等に熱中しながら、ごく自然に「信心のけいこ」をさせていただく場だったのかと、今頃あらためて感じ入っている次第です。

これからも、少年少女会の様子を「さわかせ」誌面で拝見させていただくことを楽しみにしています。

10月23日(日) 午前10時30分より

生神金光大神大祭奉行

祭典後説教 講題：「ふたつの心」

講師：片江教会長 山田三郎先生

11月

- | | | |
|--------|---------------|----------|
| 1日(火) | 月例祭執行 | 午後2時 |
| 3日(祝) | うりわり墓参 | 午前7時 |
| 6日(日) | 御本部月参拝 | 午前6時出発 |
| 10日(木) | 大阪教会大祭 | 午後2時 |
| 13日(日) | 月例祭執行 | 午前10時30分 |
| 18日(金) | 信徒共励会 | 午前10時 |
| 23日(祝) | 堺大浜教会生神金光大神大祭 | 午後2時 |
| 24日(木) | 月例霊祭執行 | 午後2時 |



12月

1日(木) 月例祭並びに

初代教会長例年祭(79年)執行 午後2時



秋季霊祭の祭典後、敬老のお祝い
をしました。(9月23日)



秋の合同墓前祭が瓜破霊園におい
て執り行われました(9月25日)

さわかぜは、韃教会ホームページからもお読みいただけます。



金光教うつぼ教会

検索

<https://utubo.konko.info/>